

## ぼくの日本

坪井 雄造

2011年は、ぼくにとってとってもいい年でした。なぜかと言うと、日本に行けたからです。ぼくは、三年目にして日本りゅう学しけんにうかることができました。

日本のようなとおいところによりょうこうしたことがなかったので、日本に行くときはかなりきんちょうしていました。しゅっぱつの日はじゅんぴでとてもいそがしかったのですがおもしろいこともありました。それは、ぼくの母がおみやげを10キロいれるかわりに、日本のおみやげを20キロもたのんだのです。

そのあと、ブラジリアのひこうじょうに行ってタグアチンガ日本語学校のひろゆきとライアンス日本語学校のひろくんとあって、すぐしゅっぱつの時間になりました。かぞくとわかれたときはしんぞうがどきどきし、なきそうになりました。

ひこうきにのってサンパウロにつきました。サンパウロでほかのみんなとごうりゅうしました。そこで四時間まって、フランクフルトで六時間まちました。日本についたときは、みんなすごくつかれていました。

JICAのいじゅうセンターでは、せわをしてくださる水上先生とあいました。その先生にあいさつしたあと、先生がへやをあんないしてくれました。

しょにちは、じさぼけがけっこうあって、すごくねむかったのですが、すぐになれました。けんしゅうで一ばんたのしかったのは、わしとおはしをつくるじゅぎょうでした。あと、ぼくはロボットにもきょうみがあったので、ロボットのプログラミングのじゅぎょうもとてもおもしろかったです。

日本でのしゅうまつには、ぼくのおじさんのうちに行きました。そこで、ラーメンやおすし、やきにくなど、日本のおいしい食べものを食べたり、あきはばらでカメラなどかいものをしました。そして、東京モーターショーにも行って、たくさんきれいな車を見ました。

けんしゅう中、しんかんせんできょうとまで行って、わかやまでホームステイもしました。そこでとてもいいかぞくにあいました。そのかぞくと山へゆきを見に行くと、はじめてゆきにさわりました。てぶくろをしていなかったなので、手がこおりそうでした。ゆきがつせんをしたりして、ゆきをたのしみました。ぼくはそのかぞくとあえて、ホームシックだったのがなくなりました。

ホームステイ先から京都へもどって、お寺やじんじゃを見に行きました。きんかくじはとてもきれいでしたが、その日はかぜがあって、水にうつったきんかくじが見られなくて

ざんねんでした。さいごは、わがしづくりもたいけんしました。じぶんでつくったわがしのあじはさいこうでした。

今は、このさくぶんをかきながら、日本へ来ることができて本当によかったなあとおもっています。この先、また日本にこれるようにもっとべんきょうをがんばりたいとおもいます。そして、このつぎは日本でともだちをもっとつくりたいです。